

授業科目 保健医療福祉連携学 III (保健・地域)

| | | | | |
|--|------|------|------|-------------------------|
| 【担当教員名】 島貴 秀樹、石原 美由紀 丸山 敬子、佐藤 敏郎 | 対象学年 | 3 | 対象学科 | 理学・作業・言語・義肢・健栄・スポ・社会・看護 |
| | 開講時期 | 前期 b | 必修選択 | 選択 |
| | 単位数 | 1 | 時間数 | 15 |

| | | | | |
|-------------------|-------|-------|----|-------|
| 【カリキュラムポリシーとの関連性】 | | | | |
| 知識・理解 | 思考・判断 | 関心・意欲 | 態度 | 技能・表現 |
| ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ |

【概要・一般目標：G10】
 <概要>
 現代社会においては、地域で生活する生活者の視点で保健、医療、福祉、教育を考えていくことが求められている。特に、日々の生活における QOL を高めるためには、各世代におけるライフステージに応じた健康増進プログラムの立案と、それを支えるヘルスプロモーションを保健師、管理栄養士、健康運動指導士、理学療法士などの職種が連携して行なうことが求められる。この職種間連携について本講義では学習する。
 <G10>
 子どもの健康教育、生活習慣病予防、転倒予防など、ライフステージに応じたプログラムを立案することにより、各職種の独自性と連携の関係を理解する。

【学習目標・行動目標：SB0】

1. 保健・地域の現場における各専門職の役割について列挙する。
2. 保健・地域の現場における連携の必要性について説明する。
3. 保健・地域の現場における多職種の連携の実際について述べる。
4. グループワークを通して、それぞれが学んでいる専門分野の立場から意見を述べる。

| 回数 | 授業計画・学習の主題 | SB0 番号 | 学習方法・学習課題 備考・担当教員 |
|----|---|--------|--------------------|
| 1 | 【オリエンテーション・講義】保健・地域の現場における多専門職間の連携の必要性とその実際 | | 担当教員 |
| 2 | 【グループワーク】提示事例の検討 | | 担当教員 および ファシリテータ教員 |
| 3 | 【講義】対象者情報の収集とアセスメント | | |
| 4 | 【グループワーク】提示事例の検討 | | 担当教員 および ファシリテータ教員 |
| 5 | 【講義】対象者に適した健康増進プログラム | | |
| 6 | 【グループワーク】提示事例の検討 | | 担当教員 および ファシリテータ教員 |
| 7 | 【講義】対象者に適した健康増進プログラム | | |
| 8 | 【リフレクション】授業のまとめ・グループのふりかえり | | 担当教員 |

| | | | | |
|-------------------|--------|-------|-------|------------|
| 【使用図書】 | <書名> | <著者名> | <発行所> | <発行年・価格 他> |
| 教科書 (必ず購入する書籍) | | | | |
| 参考書 | | | | |
| その他の資料 | その都度配布 | | | |

| | |
|--|--|
| <p>【評価方法】</p> <p>出席は2 / 3 以上を前提とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業への出席状況 40% 2. その他、グループワークへの積極的取り組みやレポート等が 60% <p>授業中は積極的に発言すること。</p> | <p>【履修上の留意点】</p> <p>授業は講義とグループワークを交互に実施する。</p> <p>グループワークは、保健・地域の現場における事例への適切な対応について、連携を中心にすえた話しあいにより時間内にグループ発表をおこなうものである。グループは受講者 160 名が 5～6 名程度ずつ 30 グループを形成し、3 回のグループワークにおいて各グループのメンバーは変更しない。</p> |
|--|--|